



社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

葦

大阪発達総合療育センター機関紙
第31号 2018年秋

INDEX

・特集に寄せて	1P	・リレーエッセイ	3P
・特集 あさしお園	2P	・USJからの車両の寄贈について	4P
・特集 ゆうなぎ園	2P	・職員研修実績状況	4P
・第38回近畿作業療法学会 学会長報告と御礼	3P	・寄付金と寄附物品	4P
・X線装置の更新について	3P		

■特集に寄せて

大阪発達総合療育センター センター長

鈴木 恒彦



猛暑後の地球温暖化による超大型台風に襲われた昨今でした。災害予防の準備から台風が過ぎる迄、懸命な職員の努力のお陰で利用者様に辛い被害はなかったのですが、港分園では施設の一部が損傷されました。このような分園の環境下で、あさしお園とゆうなぎ園でのニーズに合わせた積極的活動の様子が今回詳しく報告されています。工夫と努力を要するお仕事ですが、一層の健闘を期待しています。リハビリテーション部辻次長が会長の第38回近畿作業療法学会の報告は、盛会で何よりでした。10年ぶりに更新された最新のX線装置は、その後順調に機能しているようで楽しみです。今回の西尾恵美さんのリレーエッセイは、ご自身が意欲的に現在の専門的仕事に取り組める源が披露されています。(株)USJから寄贈いただいた車のことが最後に紹介されています。ありがたい寄贈の背景には、多方面からの当施設に対する高い評価と期待があることを職員みんなで分かち合いたいと思います。

■特集に寄せて

大阪発達総合療育センター 副センター長

船戸 正久



猛暑の夏が過ぎ、やっと秋らしい涼しさを感じられる今日この頃になりました。今年は大阪の地でも北部地震や台風21号のため停電を始め様々な被害を受け、災害対策の重要性を現実的に認識する機会となりました。

今回は、港区にある大阪発達総合療育センター分園の児童発達支援活動について紹介させていただきます。港分園は、充実した在宅療育を実践するため1978年に肢体不自由児通園施設「あさしお園」、難聴幼児通園施設「ゆうなぎ園」として開設されました。その後制度が変わり児童発達支援センター（肢体不自由児・難聴児）として、現在も子どもと家族の笑顔のために多職種で積極的に活動を継続しています。その活動の一端が紹介されています。

また辻次長が会長として開催した第38回近畿作業療法学会の報告、戸松放射線技師の新しく更新したX線装置の紹介、HPS看護師の西尾さんによるリレーエッセイの文章があります。是非お楽しみください。



「げんきいっぱい・たのしさいっぱい・えがおいっぱい」家族と共に

あさしお園 科長補佐 三好 愛恵



あさしお園は、夏休みになると園児の兄弟姉妹の同伴通園が増えます。それぞれ宿題やゲームを持参し、支援が終わるまでの時間を過ごしてくれます。そこで、長い夏休みの一日を家族みんなで楽しみ、「気持ちいい」を感じるスペシャルデーを新たに企画しました。手作り工作教室でもちやを作り、家族みんなでプールで遊ぶという内容です。通園児がプールで遊ぶのを羨ましそうに眺めていた兄弟姉妹が大胆に楽しむ姿は、もちろんねらい通りの反応でしたが、通園児が保育場面では見たことのない笑顔を見せてくれたことは、大切な家族の時間が、子どもの元気と笑顔を育てていることを改めて感じる機会となりました。

プール遊びは、夏ならではの活動です。水は最も自由度

の高い魅力的な素材で、保育室では緊張して動きを楽しめない子どもも水の中なら、流れる感触、手足を動かす時の抵抗感、浮いている時の揺らぎなどたくさんの感覚を感じて自ら動き出すことができます。水の心地よさを知り、自分で動けることの楽しさに気づき、自信を身につける絶好の機会となっています。秋の運動会で成果をみせることが出来ると思います。

工作教室は、流行のプラバンを使った作品を作り、夏休みの自由課題に提出しようという声が上がっていました。

今後も、あさしお園が家族をサポートできる場所になっていくよう休日の空いた施設を利用した家族参加型の行事を開催したいと考えています。そして、療育を支えてくれている、兄弟姉妹のみなさんに心より感謝です。



ゆうなぎ園

ゆうなぎ園 リトミッククラス

ゆうなぎ園 熊井 秀子・板東 美知子



難聴があると、ことばが分かるようになって音楽のリズムや音程が理解できずに、音楽が嫌いになっていく子どもが多い為、ゆう

なぎ園では希望者を対象に、年少（1～3歳児）年長（4～5歳児）の2グループに分けて月1～2回リトミック（幼児音楽教育メソッド）クラスを設けています。幼少期に補聴器や人工内耳を活用して、リズムを理解し、音楽には音程があることを知り、音楽に親しみ、楽しめるようになることをねらいとしています。

支援では、子どもたちが大好きなボールを使い、2拍子のリズムに合わせながら、二人で向かい合って転がしたり、みんなで輪になって隣の人に回したりします。また、フープを車に見立ててピアノの音に合わせてガタガタ道を走ったり、カーブを曲がったり、車が故障したらトンカチ

で修理もします。音やことばだけでは理解が難しい為、絵カード等を提示してイメージを共有できるように配慮しています。

リトミックの中で遊園地や動物園に出かけたり、あるときは海の中に潜ったり。初めは職員の動きを模倣していた子ども達も、繰り返し音楽を聞いているうちに曲の違いに気付き、魚になったり、たこになったり、エビになって跳ねたり、「サメが来た！」の曲になるとキャーキャー言いながら大慌てで部屋の隅に逃げ込んだりして、全身で音楽を感じて表現できるようになっていきます。

年長クラスでは、積み木を使って音階を視覚で理解できるように説明してから、聞こえと照らし合わせて音階の聞き取りをしたり、鍵盤ハーモニカにも取り組んだりしています。音符や楽譜に親しみ、理解してから小学校に入学し、音楽の授業にスムーズに入っていけることを願っています。





平成30年7月22日(日)大阪国際交流センターにて、第38回近畿作業療法学会が開催され、学会長という役割を拝命しました。猛暑の中、学会史上最高1043名という多くの皆様のご参加を賜り厚く御礼申し上げます。

「みえる わかる かわる 伝える 伝わる 作業療法」をテーマとし、教育講演では、「脳科学を根拠とした発達支援とニューロリハビリテーション」、

公開講座では、「米国でのスクールOTについて」、また、近畿2府4県の共通課題として「特別支援教育」「地域包括ケア」、「認知症支援」「就労支援」について実践報告がありました。さらに、作業療法の原点となるアートパフォーマンスでは、絵画、園芸、音楽、ダンスなどが紹介され、

参加者にとって満足度の高い有意義な1日となりました。

そして何より大きな収穫は、学会誌の広告協賛、表紙デザイン作成から事務局、当日運営、学会参加と、様々な形で当センター法人、職員の方々から応援協力をいただき、この大役を果たすことができたことです。皆様の努力とチーム力に心より感謝申し上げます。併せて、当センター桃川里奈さんが口述発表した、「施設で暮らす子どもへの支援課題-MTDLPにより参加が広がった重症心身障害児を通して-」が、83演題の中から審査員特別賞を受賞したことも名誉なことでした。

最後に、府民公開講座で、日本総合研究所 紀伊信之氏と日本作業療法士協会 中村会長がこれからの日本は、「リハビリテーションと街づくり」が重要課題であると発信されました。子どもから高齢者まで安心安全で共に暮らせる街づくりは、目の前のお子様、利用者様、ご家族に謙虚に向き合い、真摯に耳を傾け、皆で相談し合い考え進んでいく「人づくり」、「場づくり」「道づくり」であると受け止め、これからも歩んでいきたいと存じます。

皆様のご健康と益々の活躍を祈念致しまして、ご報告と御礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

X線装置の更新について

診療放射線科 戸松 正英

放射線科のトピックスとして今年8月に放射線機器の更新がありました。具体的には一般X線撮影装置、X線テレビ装置それに付随する機器であります。従前の機器は購入後10年を経過し画像の劣化および故障の際部品の供給が出来なくなることが危惧されました。

おもに嚥下造影検査に使用されるX線テレビは、撮影スペースが広くなり、検査がやりやすくなると共に、透視画像が鮮明になりさらに被曝線量が軽減できるようになりました。

一般X線撮影装置は安定してX線出力できるようになることにより、画像の向上が図れる点が挙げられます。運用面においては、撮影室内での撮影条件の変更やフットスイッチが利用できるようにより患者様に、より安全でスピーディーな検査の実施が



可能であると考えており、また、課題点として操作の不慣れが挙げられ、速やかに習熟度上げる必要を感じています。

※今回導入された機器に興味のある方は下記URLにて参照できます。

X線テレビ装置 <https://jp.medical.canon/products/xray/zexira>

X線一般撮影装置 https://jp.medical.canon/products/xray/kxo_ss



訪問看護ステーションめぐみ HPS・訪問看護師

西尾 恵美



リレーエッセイ 3番目お笑い担当の訪問看護ステーションめぐみの西尾恵美です。

さっそくですが、皆さんには「生きていく中でのテーマ」みたいなものはありますか?仕事、家事、子育てと忙しい毎日の中で、ふと「私は何のために生きているの?」と考えたりする時ってありませんか?私は、時々考えます(笑)。それで今回のリレーエッセイでは、私の事を紹介しながら、「明日から違う自分になれるかもしれないヒント」をお伝えできればと思います。

私の幼少期は、何の趣味や特技もなく、周りから「しゃべらない子」、「何のとりえのない子」と言われてました(今の私を知っている人は驚きでしょうか?)。卒業文集のタイトルは「私の人生こんなもの」でした(笑)。

そんな私の転機は、お笑い芸人のような、いつも笑っている、笑顔そのものの従妹でした。小学生ながらに私は従妹を真似てみるこ

にしました。すると周りから「いつも元気で笑顔やね」と、いつの日にか「しゃべりと、お笑い」が私のとりえになっていました。「子ども(人)は真似をすることで成長する」、私は色々な人の良いところを真似することが大好きで、「同じ出来事でも違う方向から見る」、「何もない」は「何かできる」チャンスと思って生きてます。仕事で出会う人たちに、私にはどんな良いところがあるのか、教えてもらう毎日です。ふと迷ったら深呼吸して周りの皆を見るようにしています。そんな私は今、「何のために生きているか」の答えも出そうです。皆さんつらい時、疲れた時、そんな私の笑顔を見にきて下さいね。

今回のリレーエッセイは、わかば病棟看護師満田宏美さんです。お楽しみに♪

株式会社USJからの車両の寄贈について

今年の6月に株式会社USJより車両を寄贈して頂きました。

6月10日のチャリティーディナーショーにて贈呈を受けた後、当センターに納車されました。

株式会社USJからは、2015年にも港分園に車両を寄贈頂いており、今回で2台目となります。

車両のボディには人気キャラクターミニオンがペイントされており、入所児の支援学校への送迎の際、子どもたちも大変喜んでおり毎日大活躍しています。



職員研修実施状況

H30年7月～H30年9月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
平成30年7月23日(月) 17:40～18:50	教育研修部	「新しい食形態について」	運営局栄養科 嶋田容子 主任 医務部小児科 片山珠美 医師	88名	5階ホール
平成30年9月3日(月) 17:40～18:40	教育研修部	「障害がある若者の自己決定支援」	NPO法人ちゅうぶ 障害者活動センター青おに 八木慎一 氏	49名	5階ホール
平成30年9月8日(土) 9:00～17:00	運営局・ 教育研修部	「若手・中堅パワーアップ研修」	株式会社インソース 川島睦美 氏	23名	5階ホール
平成30年9月19日(水) 17:40～18:40	運営局	「2018世界ボッチャ選手権大会報告」	運営局 中村拓海 リハビリテーション部 井上伸 副主任	46名	5階ホール
平成30年9月22日(土) 9:00～17:00	運営局・ 教育研修部	「若手・中堅パワーアップ研修」	株式会社インソース 川島睦美 氏	12名	5階ホール

感謝

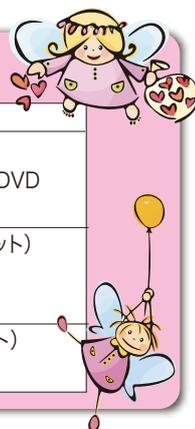
大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます

一般寄付金

月	寄付者（敬称略）	
7月分	フェニックス家族の会 7月分楽基金 14件	本園
8月分	西野 俊一 8月分楽基金 6件	
9月分	株コジマ 小島 常男 日進交通(株) 井上 明生 匿名 1件 9月分楽基金 2件	

寄付物品

月	寄付者（敬称略）	物品名
7月分	平瓦 出野 彩佳 匿名	ぬいぐるみ おもちゃ(金魚すくい)・DVD 浴衣・帯・髪飾り
8月分	大川 雅也 匿名 匿名	おもちゃ(ボウリングセット) 行事用飾り おむつ
9月分	匿名 小野山 弘子	おもちゃ(回転すしセット) ハンモック



大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者・梶浦一郎

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児
〒552-0004 港区夕風2-5-3
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524